

平成 28 年度 Let's びぎんプロジェクト 活動報告書

No.	プロジェクト名	掲載頁
0	(各プロジェクトサマリー)	1-6
1	議員見聞録	7-11
2	Pay Ito Forward ～フィリピンに 100 の夢を届けよう～	12-15
3	ProjectQ～「あたりまえ」にクエスチョン！～	16-19
4	冬だ！雪だ！キャンプだ！	20-27
5	ひろの福幸プロジェクト	28-30
6	大迫町の中心でぶどう愛を叫んじゃいました	31-36

平成28年度Let'sびぎんプロジェクト サマリー

プロジェクト名	議員バッヂとダージリン (HP名 議員見聞録)
【構成員氏名・学部・学年】 吉田 拳 (人 4年) 高橋 優 (工 3年) 嘉村祐人 (人 4年) 貝沼 携 (工 4年) 阿部慶太 (農 4年)	【活動目的】 日本の若者は、参政意欲は高いものの、投票率は低迷しています。その一因は投票の判断材料を手に入れ難い状況にあります。そこで私たちは議員情報サイトを制作することで投票の利便性を高め、最終的に投票率の向上につなげようと考えました。
【主な活動の経過・内容】 2016年 11月30日 インタビュー 12月25日 サーバーとドメインの契約 12月26日 Link (ウェブ制作会社) との打ち合わせ (3回目) 2017年 1月17日 Link (ウェブ制作会社) との打ち合わせ (4回目) 1月18日 Webサイト最終納品 1月19日 工藤健一議員の記事 (修正) をアップロード 1月28日 伊勢志議員の記事をアップロード 2月18日 浅沼克人議員の記事をアップロード 2月24日 庄子春治議員の記事をアップロード	【写真・記録・図表等】 
【得られた成果】 各員の努力により、どうにか4名分の記事が完成 (2月27日現在) し、Webサイト上で公開されています。しかし、達成率は10.5%と、目標には遠く及ばず大変無念です。卒業後もこの企画を継続していきたいと考えており、現在、NPO法人の申請を準備しています。岩手大学の教職員の方も団体を構成していただき、ご指導を賜りながら、企画を行い、可能な限り早急に盛岡市議会議員全員を取材したいと考えています。	

平成28年度Let'sびぎんプロジェクト サマリー

プロジェクト名	Pay Ito Forward -フィリピンに100の夢を届けよう-
【構成員氏名・学部・学年】 北村ちひろ(教2年) 佐藤由季也(教3年) 門脇日向(農2年) 小笠原里英(人社2年) 柏田愛美(教1年)	【活動目的】 経済的格差による教育の質の違いに強い疑問を持ち、子供を対象にして支援が出来ないか、自分たちがきっかけを与える存在になれないかと考えた。また、支援活動を通して他の学生や地域の方々にもこの現状や問題を少しでも知ってもらいたいと考えた。そこで、絵本に触れる機会が日本に比べ非常に少ないフィリピンに対して、絵本を送ることを通して日本から夢を届け、フィリピンの子供たちの世界や視野が広がるきっかけづくりをすることを目的として活動を始めた。さらに、絵本を集める活動を通して多くの人にフィリピンのことを知ってもらうきっかけにする、英語の翻訳活動を通して学生の英語学習の場とするとともに、国際協力の学びの場とすることも目的とした。
【活動の経過・内容】 【5月～7月】 絵本寄贈の呼びかけ 【8月】 絵本の翻訳活動 【9月】 フィリピン・マニラの子供博物館、Museo Pambata訪問を訪問し、16冊の絵本を寄贈 【10月】 翻訳活動及び絵本発送準備 【11月～】 マニラの小学校へ2回発送	【写真・記録・図表等】  
【得られた成果】 最終的に227冊の絵本(英語の本118冊を含む)をフィリピンに届けることが出来た。翻訳作業の困難さや、配送する際にもなう配送会社、インボイス、関税などの多くの問題、フィリピンのスタッフとの連絡の取り方など多くの課題にも直面したが、話し合いを重ねたり、様々な方面から情報を収集したりして乗り越えることが出来た。遠い外国の地に絵本を送ることがどれだけ難しいことなのかを感じさせられた活動だった。しかしながら、メンバーの強い思いと、周りの方々の協力、フィリピン側の温かい対応のおかげで本プロジェクトを成功に導くことが出来た。 たくさんの方の協力のおかげで、絵本の収集も予想以上にスムーズに行うことが出来た。英語の児童文学も多く寄贈いただいたので、それらは小学校中心に、絵本は博物館中心にと受け取る側のことを考えながら活動することが出来た。フィリピンからも子どもたちが絵本を読んでいる写真が送られてきたり、先生方が新たに図書スペースを設けてくれるなど喜ばしい報告も多く受け取ったりと嬉しい反応をいただくことが出来た。少しでもフィリピンの子供たちの笑顔に繋がったのではないかとと思われる。また、翻訳活動を通して多くの学生の力を借り、応援してもらった。学生にとっても活動について考えるきっかけになってくれたのではないと思う。さらに、学童施設での活動紹介と夢カード作りや、様々な広報活動を通して少しでも多くの人にフィリピンのことを知ってもらうことが出来た。プロジェクトを通して、興味ある学生を巻き込むことが出来たし、メンバーである私たち自身の大きな自信にもなった。 2	

平成28年度Let'sびぎんプロジェクト サマリー

プロジェクト名	ProjectQ ～「あたりまえ」にクエスチョン！～
【構成員氏名・学部・学年】 及川 歩実(人社4年) 加藤 麻衣(教4年) 高島ゆきな(理1年) 玉木 春香(人社2年)	【活動目的】 LGBTsが周囲の人や社会から受容されにくい状況を変え、誰もが安心してありのままの自分らしく生きられる社会(盛岡)や学内環境をつくること。
【活動の経過・内容】 【7月～10月】 ポスターの制作 【10月】 岩手大学文化祭でのポスター展示 【11月～1月】 パンフレット・缶バッジ・ステッカーの制作 【2月】 岩手大学での講演会 【3月】 アイーナでの講演会	【写真・記録・図表等】  
【得られた成果】 10月の岩手大学祭ではブースへの来場者数が159人(廊下の展示だけ見た人も含めると200人以上)となり、2月、3月の講演会では、学生及び様々な職業の方に参加していただいた。上記に加え、パンフレット2000冊を配布済みであり、あたりまえにクエスチョンするきっかけを多くの方に提供できた。 今後もパンフレットの配布や、講演会・座談会の開催を検討している。	

平成28年度Let'sびぎんプロジェクト サマリー

プロジェクト名	冬だ！雪だ！キャンプだ！
【構成員氏名・学部・学年】 菊池紗江（教4年） 小野寺美智（教4年） 大倉恒星（農2年） 門脇日向（農2年） 木村愛（教2年） 高橋長仁（農2年） 立花春香（盛岡大学） 武田美咲（教4年） 三上佑馬（教4年） 千葉瑞希（教2年） 光成芳（教育学研究科 1年） サポートメンバー 鈴木 孔明 衛藤 優 山家 直之 遊佐 瞳	【活動目的】 これから、次世代を担う子どもたちに備わってほしいのは、たくさんの経験から培われる「生きる力」であると考えます。住む町・年齢の違う、初めて出会う子どもたち同士がキャンプをすることで、仲間とのコミュニケーション能力や自分の思いを発信する力、異なる他者と協働したりする力等を、子どもたちに身につけてほしいと考え、キャンプを企画した。
【主な活動の経過・内容】 5/31 コンセプト決定 ～情報収集・レッツびぎん 採択～ 8/29 これからの計画 見通し・スケジュール決め 11/1 ポスター決定 プレキャンプ・キャンプ日確定 11/29 予備実験 プレキャンプ確認 12/17.18 プレキャンプ 12/20 要項配布 ～山田町訪問～ 1/5 盛岡市 児童館 要項配布 1/15 今後のスケジュール確認 2/11・12 ボランティアメンバーによるプレキャンプ	【写真・記録・図表等】  
【得られた成果】 キャンプを1から作り上げるための基礎をつくることができた。 子どもたちにどんな力をつけさせたいか、どんな姿を望むか、安全な環境を設定するために私たちが何を考えなければいけないかなど、子どもたち目線で活動を考え進めることができた。 メンバーの一人一人が自分の意見を持ち、話し合いを行えた。	

平成28年度Let'sびぎんプロジェクト サマリー

プロジェクト名	ひろの福幸プロジェクト
【構成員氏名・学部・学年】 鈴木健太(人社2年) 芦口和哉(人社2年) 安藤樹 (人社2年) 槻木澤霞(人社4年) 槻木澤楓(人社3年) 岡田翔 (人社2年) 石岡学歩(人社2年) 小森和樹(人社2年) 佐藤優人(人社2年) 村田佳之(人社2年) 熊谷綾香(人社2年) 羽生絢子(人社2年) 林彩貴 (人社2年) 高畠倫史(工2年) 小田彩 (農1年)	【活動目的】 [1]復興支援:洋野町から三陸沿岸地域の福幸へ 洋野町は東日本大震災津波に於いて基幹産業である漁業に関して、漁場、漁業施設等に壊滅的な被害を受けたものの、三陸沿岸の市町村では唯一、人的被害が無かった。三陸沿岸に在りながら他の三陸沿岸地域に比べ元の姿を取り戻し易い。その様な洋野町が福幸を成し遂げる事でその力が他の三陸沿岸地域に波及し、結果として岩手県の福幸に繋がるのではないだろうか。山と海とが併存する町、洋野町を活性化する一助となる事で県内各地域の福幸を推し進める力を、私達は発信する。 [2]地域創生:洋野町の一体化～未来へ向けて 洋野町は平成18年1月1日に旧種市町と旧大野村とが合併して新たに誕生した町である。しかし、現在でも尚、種市や大野の名前を使う事の方が多い。私達は新しくなった洋野をこれからの未来へと発信したい。そこで、お年寄りと子供達との新旧世代間の交流、又、山側の大野と海側の種市との町民達の間での交流を図り、未来の洋野町造りに貢献する。今年度は特に洋野町の高校生との合同作業を通し、若い世代による町づくりを支援していきたい。
【活動の経過・内容】 【5月】 ウニ直売会での手伝い 【10月】 大学祭での「ひろのバーガー」販売 【11月】 E_code主催のぬぐだまるフェアに参加し、洋野町の宣伝 【12月】 新聞発行へ向けた調査 【2月】 洋野町の高校生と職の交流会	【得られた成果】 第一に、活動を通じて大学生の洋野町への理解が広がった。交流人口も広がり、福幸へ向ける一助となった。 第二に、洋野町の高校に於ける当プロジェクトの知名度が上昇した。今後の交流活動に於ける布石となり、食の交流会はこれを証明した。 第三に、食の交流会は食の匠・大学生・高校生の交流を実現し、各世代の交流を実現した。加えて、大学生・高校生双方にとって洋野町の文化に触れる良い機会となり、洋野町の一体化へ向けての活動の今後の雛形と言える活動となった。

平成28年度Let'sびぎんプロジェクト サマリー

プロジェクト名	野に生きる動物の暮らしを覗こう	
【構成員氏名・学部・学年】	【活動目的】	
白井賢太郎(農2年) 照井絢子(人社2年) 榮田真子 (農4年) 阿部慶太(農4年) 鈴木綾華(人社2年) 和山柚子(教2年) 佐藤初音(農2年) 柿崎瑞生(教3年) 小岩千夏(人社3年) 平谷一馬(農3年) 佐藤優(農4年) 三上華永(人社2年) 白埜源(人社2年) 三角麗美(人社2年) 芦口和哉(人社2年) 村主渉(農1年) 伊藤望(農1年) 土崎魁(人社1年) 高橋京介(人社1年) 高橋佑季(農1年) 伊藤さわこ(人社1年) 佐野広之(農1年) 稲田涼吾(農1年) 渋谷泰我(農1年) 大谷昭博(農1年) 工藤唯(農1年) 川端菜月(農1年)	学生とぶどうづくりの現場をつなぎ、 多くの人に大迫の魅力を伝え、地域 を盛り上げる	
【活動の経過・内容】	【写真・記録・図表等】	
【7月】 ぶどうつくり隊と就農セミナー、交流会	 	
【8月】 東大生と交流、矢巾町での学生交流会 地域支援の学生団体の集まりで、この活動の紹介と他団体との交流、 NHK盛岡放送局まじえ5時 部長出演 大迫のぶどうを持参し、ラジオ出演。大迫をPR！		
【9月】 情報誌作成のための大迫現地への取材を数回、 おおはさまワインまつりでのお手伝い		
【10月】 不来方祭にて情報誌“Oh!はさま！～ちょっとでも驚いてほしい、大迫のいいところ～”を配布し、大迫のぶどうを同時に販売。		
【11月】 いわてぬぐだまるフェス@クロステラス盛岡に参加		
【1月】 岩手大学中央食堂にて大迫の3つのワイナリーさんに集ってもらい、 各ワイナリーの紹介やこのプロジェクトの活動紹介、そしてワインの試飲会を行った。		

平成 28 年度 Let's びぎんプロジェクト

最終報告書

プロジェクト名：議員バッヂとダージリン

(改名：議員見聞録)

<報告書必須記載事項>

1. 構成員氏名・学部・学科（課程）・学年

吉田 拳	人文社会科学部	国際文化課程	4 年
高橋 優	工学部	社会環境工学科	3 年
嘉村祐人	人文社会科学部	国際文化課程	4 年
貝沼 携	工学部	マテリアル工学科	4 年
阿部慶太	農学部	農学生命課程	4 年

2. 活動目的

日本の若者は、参政意欲は高いものの、投票率は低迷しています。その一因は投票の判断材料を手に入れ難い状況にあります。例えば現在、若者の多くがスマートフォンやパソコンを所持し、インターネットを用いて情報を手に入れています。しかし、ネット上にある議員の情報は信頼性が低く、検索しても上位に表示されず、なりより全体量が非常に少ないという状況にあります。そこで私たちは議員情報サイトを制作することで投票の利便性を高め、最終的に投票率の向上につなげようと考えました。

3. 活動の経過・内容

主に行ったことは 2 つです。1 つ目は、盛岡のホームページ制作会社 Link に依頼して Web サイトを制作すること。2 つ目は、盛岡市議会議員一人一人に企画を説明し、インタビューを行い、記事を作成することです。今回は盛岡市議会議員 38 名のプロフィールとインタビュー記事を作成し、まとめて一般公開することを目指しました。

4. 結果報告

Web サイト自体は 1 月 18 日に最終納品されました。Link の小笠原様には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。一方、取材および記事の作成は困難を極めました。原因としては、主要メンバーが 4 年生で多忙だったこと、議員の動きを把握しておらず上手くアポがとれなかったこと、予算で書き起こしソフトを購入したものの作業時間が減らなかったこと等が挙げられます。しかしながら、各員の努力により、どうにか 4 名分の記事が完成（2 月 27 日現在）し、Web サイト上で公開されています。しかし、達成率は 10.5%と、目標には遠く及ばず大変無念です。（ちなみに、修正原稿の返ってきていない、書き起こしが 2 月末までに完了予定といった実質的に完成している記事を含むと 7 人

となり、達成率は 18.4%まで上昇します。)

5. 今後の活動予定

卒業後もこの企画を継続していきたいと考えており、現在、NPO 法人の申請を準備しています。岩手大学の教職員の方も団体を構成していただき、ご指導を賜りながら、企画を行い、可能な限り早急に盛岡市議会議員全員を取材したいと考えています。

6. 活動写真







平成 28 年度 Let's びぎんプロジェクト

最終報告書

プロジェクト名：

Pay Ito Forward -フィリピンに 100 の夢を届けよう-

1. 構成員氏名・学部・学科（課程）・学年

氏名	学部	学科課程	学年
北村ちひろ	教育学部	学校教育教員養成課程	2 年
佐藤由季也	教育学部	学校教育教員養成課程	3 年
門脇日向	農学部	共生環境課程	2 年
小笠原里英	人文社会科学部	国際文化課程	2 年
柏田 愛美	教育学部	学校教育教員養成課程	1 年

2. 活動目的

フィリピン、マニラ市での語学研修に行ったメンバーで本活動を企画した。それぞれが現地で日々の生活やボランティア活動、スラム街の訪問などを通して、途上国における問題に対し肌身をもって感じた。特に経済的格差による教育の質の違いに強い疑問を持ち、子供を対象にして支援が出来ないか、自分たちがきっかけを与える存在になれるかと考えた。また、支援活動を通して他の学生や地域の方々にもこの現状や問題を少しでも知ってもらいたいと考えた。そこで、絵本に触れる機会が日本に比べ非常に少ないフィリピンに対して、絵本を送ることを通して日本から夢を届け、フィリピンの子供たちの世界や視野が広がるきっかけづくりをすることを目的として活動を始めた。また、絵本に触れる機会を与えることで学びの場のきっかけにしたり、創造力を高め、知識を増やすきっかけにしたりしたいと考えた。さらに、絵本を集める活動を通して多くの人にフィリピンのことを知ってもらうきっかけにする、英語の翻訳活動を通して学生の英語学習の場とするとともに、国際協力の学びの場とすることも目的とした。

3. 活動の経過・内容

5 月から 7 月にかけて、岩手大学の学生・教職員、地域の学童施設、地域の方々に絵本の寄贈協力と呼びかけ、7 月時点で 100 冊を集め終えた。また、Facebook で活動日記と Share the Philippines のコーナーをスタートさせた。その後、プロジェクトのメンバー以外にも 20 名を超える翻訳サポーターの学生の力を借りて、日本語の絵本の英語への翻訳活動を開始した。8 月は翻訳活動を続け、9 月にはフィリピン・マニラの子供博物館 Museo Pambata を訪問し、16 冊の絵本を現地スタッフへ手渡し寄贈した。また、9 月下旬には地域の学童施設を訪問し、夢カードの作成を行った。10 月は絵本の発送に向け、翻訳活動を続けながら梱包やインボイスの準備を行った。11 月上旬に第一弾（79 冊）をマニラの小学校へ発送、下旬には第二弾（72 冊）を Museo Pambata へ発送した。12 月・1 月は翻訳活動、シール貼りを進め最終発送に備えた。2 月に第三弾（60 冊）をマニラの小学校へ発送した。

4. 結果報告

最終的に 227 冊の絵本（英語の本 118 冊を含む）をフィリピンに届けることが出来た。翻訳作業の困難さや、配送する際にともなう配送会社、インボイス、関税などの多くの問題、フィリピンのスタッフとの連絡の取り方など多くの課題にも直面したが、話し合いを重ねたり、様々な方面から情報を収集したりして乗り越えることが出来た。遠い外国の地に絵本を送ることがどれだけ難しいことなのかを感じさせられた活動だった。しかしながら、メンバーの強い思いと、周りの方々の協力、フィリピン側の温かい対応のおかげで本プロジェクトを成功に導くことが出来た。

たくさんの方の協力のおかげで、絵本の収集も予想以上にスムーズに行うことが出来た。英語の児童文学も多く寄贈いただいたので、それらは小学校中心に、絵本は博物館中心にと受け取る側のことを考えながら活動することが出来た。フィリピンからも子どもたちが絵本を読んでいる写真が送られてきたり、先生方が新たに図書スペースを設けてくれるなど喜ばしい報告も多く受け取ったりと嬉しい反応をいただくことが出来た。少しでもフィリピンの子供たちの笑顔に繋がったのではないかなと思われる。また、翻訳活動を通して多くの学生の力を借り、応援してもらった。学生にとっても活動について考えるきっかけになってくれたのではないかなと思う。さらに、学童施設での活動紹介と夢カード作りや、様々な広報活動を通して少しでも多くの人にフィリピンのことを知ってもらうことが出来た。プロジェクトを通して、興味ある学生を巻き込むことが出来たし、メンバーである私たち自身の大きな自信にもなった。

5. 今後の活動予定

今後のフィリピンに対する支援活動については、地域の NPO 団体のなかで発展・継続させていく。また、今年度マニラやセブに研修に行っているメンバーと帰国後に交流をし、岩手大学内で出来ることを考える機会を作りたい。毎年続くこの研修を今後も生かして支援をしていきたい。さらに、今回の活動を通して、フィリピンの支援に限らず、世界の問題を考え共有する機会、私たちがそうだったように何か考えている学生の活動を広がるような機会を生み出す活動を新たにしていきたいと考えている。

6. 活動写真





平成28年度Let'sびぎんプロジェクト

最終報告書

プロジェクト名：プロジェクトQ～「あたりまえ」にクエスチョン！～

<報告書必須記載事項>

1. 構成員氏名・学部・学科（課程）・学年

及川歩実 人文社会科学部 国際文化課程 4年

加藤麻衣 教育学部 芸術文化課程 4年

高島ゆきな 理工学部 システム創成工学科社会基盤・環境コース 1年

玉木春香 人文社会科学部 国際文化課程 2年

2. 活動目的

LGBTsが周囲の人や社会から受容されにくい状況を変え、誰もが安心してありのままの自分らしく生きられる社会（盛岡）や学内環境をつくること。

3. 活動の経過・内容

7月～10月 ポスターの制作

10月 岩手大学文化祭でのポスター展示

11月～1月 パンフレット・缶バッジ・ステッカーの制作

2月 岩手大学での講演会

3月 アイーナでの講演会

4. 結果報告

あたりまえにクエスチョンするきっかけを様々な場所や機会によって、多くの人に提供できた。

■ 来場者・参加者数

10月 岩手大学文化祭でのポスター展示

→来場者数159人

廊下の風船の展示だけ見た人も含めると200人以上

2月 岩手大学での講演会

→参加者数13人

岩手大学や盛岡大学の学生が3分の2ほど。その他には保健管理センターの職員や親子(子供は小学校一年生)にも参加していただいた。

3月 アイーナでの講演会

→参加者数15人

Webデザイナーや住職など、さまざまな職業の社会人が3分の2ほど。高校生にも参加していただいた。

■ パンフレットの配布状況

2000冊を配布済み。

補充分を含む残り3000冊は、今年のサークルオリエンテーションや文化祭、青森イン

ターナショナルLGBTフィルムフェスティバルなどのLGBT関連イベントで配布予定。

設置場所

- ・ ひめくり
- ・ C/Y
- ・ Cyg
- ・ hina
- ・ 中劇
- ・ 岩手大学芸術文化課程卒業制作展
- ・ 岩手大学構内（教育棟、芸術棟、A棟、図書館、中央食堂）
- ・ アイーナ
- ・ 弘前大学
- ・ 個人（お坊さん・高校生etc）

※インターネットでも公開

5. 今後の活動予定

（プロジェクトをどのように発展させ、継続していくのか、具体的に記載）

パンフレットを用いて、啓発活動を強化していく。

具体的には

- ・ 岩手大学の講義中に配布してもらうように、教授に依頼する
- ・ 講演会や座談会の開催

6. 活動写真





文化祭の様子



岩手大学講演会の様子



アイーナ講演会の様子

平成 28 年度 Let's びぎんプロジェクト

最終報告書

プロジェクト名：冬だ！雪だ！キャンプだ！

1. 構成員氏名・学部・学科（課程）・学年

菊池 紗江	教育	学校教育教員養成	4 年
小野寺 美智	教育	学校教育教員養成	4 年
大倉 恒星	農学	共生環境課程	2 年
門脇 日向	農学	共生環境課程	2 年
木村 愛	教育	学校教育教員養成	2 年
高橋 長仁	農学	共生環境課程	2 年
立花 春香	盛岡大学	文学部 英語文化学科	2 年

武田 美咲	教育	学校教育教員養成	4 年
三上 佑馬	教育	学校教育教員養成	4 年
千葉 瑞希	教育	学校教育教員養成	2 年
光成 芳	教育学研究科	教職実践専攻	1 年

サポートメンバー

鈴木 孔明
衛藤 優
山家 直之
遊佐 瞳

2. 活動目的

山田町・盛岡市に住む、小学 4 年生～中学 2 年生の児童生徒 40 名を対象に、「雪・冬」をテーマにしたキャンプを行う。

〈山田町 設定理由〉

設立メンバーのほとんどが、もともと SAVE IWATE の学習支援チームとして山田町・盛岡市で復興支援活動を行っていた仲間である（2016 年 3 月 SAVE IWATE 学習支援チーム解体）。山田町と深く関わりをもった中で、山田町の子どもたちが山田町以外に出て活動をする機会の少なさを感じた。また、メンバーの中には山田町の出身者もあり、そのような機会の少なさは山田町にいる時も感じていることであった。

住む町・年齢の違い、初めて出会う子どもたち同士がキャンプをすることで、仲間とのコミュニケーション能力や自分の思いを発信する力、異なる他者と協働したりする力、リーダーシップ等を、子どもたちに身につけてほしいと考える。キャンプを通し、普段の自分とは新しい自分を発見し、みんなの前で自分の思いを伝えることができる、消極的な気

持ちから一歩踏み出せるような自信をつけることができるキャンプを作り上げたい。

これから、次世代を担う子どもたちに備わってほしいのは、たくさんの経験から培われる「生きる力」であると考え、このキャンプを通し、目標をもって体験活動にチャレンジしてほしいと思い企画した。

3. 活動の経過・内容

4/20 メンバー顔合わせ

4/25 方向性決定

5/31 コンセプト決定

～情報収集・レッツびぎん 採択～

8/29 これからの計画 見通し・スケジュール決め

～ポスター作り・キャンプスケジュール原案作成・冬の実験案作成～

10/3 キャンプスケジュール再考 安全管理面確認・話し合い 要項内容確認

11/1 ポスター決定 プレキャンプ・キャンプ日確定

11/10 ポスター配布・学生ボランティアメンバー募集

～Face book 始動～

11/29 予備実験 プレキャンプスケジュール確認

12/8 新メンバー&サポートメンバー 顔合わせ

12/17.18 プレキャンプ

12/20 要項配布

～山田町訪問～

1/5 盛岡市 児童館 要項配布

1/15 今後のスケジュール確認

2/11・12 ボランティアメンバーによるプレキャンプ

〈キャンプ内容〉

- アイスブレイク
- 雪の中でアイスクリーム作り
- 雪だるまつくろう
- そり遊び
- 冬・雪の実験
 - ①ペットボトルで雪の結晶を作ろう
 - ②ダイヤモンドダストを作ろう
- わがまち自慢

～山田町・盛岡市 自分の住む町の良さを伝えるポスターを作り、発表し合おう～

4. 結果報告

山田町からの参加者を集めることができず、子どもたちとともにキャンプを行うことができなかった。

→・周知期間の短さ

- ・劇団ゆう（子どもたちが参加して行うミュージカル）の公演と同じ日程
- ・キャンプへの参加を承諾する親への働きかけ不足
- ・山田町の子ども達・親との関係づくり不足

成果

キャンプを1から作り上げるための基礎をつくることができた。

子どもたちにどんな力をつけさせたいか、どんな姿を望むか、安全な環境を設定するために私たちが何を考えなければいけないかなど、子どもたち目線で活動を考え進めることができた。

メンバーの一人一人が自分の意見を持ち、話し合いを行えた。

課題

ボランティアメンバーの確保（安全面への考慮、円滑な活動を行うためにも学生ボランティア目標 20 人確保）

山田町との関係性づくり

より見通しをもった行動

5. 今後の活動予定

～課題から考えたこと～

より早い時期からボランティアメンバー集めを始める。

山田町にメンバーが訪れる機会を設定する。

→子どもたち・親と実際に接する機会を作りたい。

→子どもたちを集めて面白実験を・親の方々からの意見交換会を行う。

今後のスケジュール

4 月 学生ボランティアメンバー 募集開始

5 月 面白実験確定 要項づくり開始

8 月 面白実験・要項チェック完了 募集開始 冬キャンプ・要項作成

9 月 冬キャンプ・後援依頼完了 要項完成

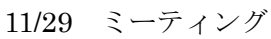
10 月 山田町での面白実験・親との交流会 冬キャンプ子どもたちの募集開始

11 月 ボランティアメンバー募集

12 月 17-18 プレキャンプ開催

1/20-21 or 2/24-25 冬キャンプ

8/29 ミーティング



12/8 ミーティング



12/17.18 プレキャンプ



12/20 山田町訪問



2/11.12 キャンプ





平成 28 年度 Let's びぎんプロジェクト

最終報告書

プロジェクト名：ひろの福幸プロジェクト

<報告書必須記載事項>

1. 構成員氏名・学部・学科（課程）・学年

鈴木健太	人文社会科学部	法学・経済課程	2年
芦口和哉	人文社会科学部	国際文化課程	2年
安藤樹	人文社会科学部	法学・経済課程	2年
槻木澤霞	人文社会科学部	国際文化課程	4年
槻木澤楓	人文社会科学部	法学・経済課程	3年
岡田翔	人文社会科学部	国際文化課程	2年
石岡学歩	人文社会科学部	法学・経済課程	2年
小森和樹	人文社会科学部	法学・経済課程	2年
佐藤優人	人文社会科学部	法学・経済課程	2年
村田佳之	人文社会科学部	法学・経済課程	2年
熊谷綾香	人文社会科学部	環境科学課程	2年
羽生絢子	人文社会科学部	環境科学課程	2年
林彩貴	人文社会科学部	環境科学課程	2年
高畠倫史	工学部	社会環境工学科	2年
小田彩	農学部	食糧生産環境学科	1年

2. 活動目的

[1] 復興支援：洋野町から三陸沿岸地域の福幸へ

洋野町は東日本大震災津波に於いて基幹産業である漁業に関して、漁場、漁業施設等に壊滅的な被害を受けたものの、三陸沿岸の市町村では唯一、人的被害が無かった。三陸沿岸に在りながら他の三陸沿岸地域に比べ元の姿を取り戻し易い、その様な洋野町が福幸を成し遂げる事でその力が他の三陸沿岸地域に波及し、結果として岩手県の福幸に繋がるのではないだろうか。山と海とが併存する町、洋野町を活性化の一助となる事で県内各地域の福幸を推し進める力を、私達は発信する。

[2] 地域創生：洋野町の一体化～未来へ向けて

洋野町は平成18年1月1日に旧種市町と旧大野村とが合併して新たに誕生した町である。しかし、10年が経とうとしている現在でも尚、種市や大野の名前を使う事が多い。合併前の地名を残す事も大事ではあるが、私達は新しくなった洋野をこれからの未来へと発信したい。そこで、お年寄りと子供達との新旧世代間の交流、又、山側の大野と海側の種市との町民達との間の交流を図り、地理的な距離を解消せしめ、未来の洋野町造りに貢献する。今年度は特に洋野町の高校生との合同作業を通し、若い世代による町づくりを支援していきたい。

3. 活動の経過・内容

5月3日には種市でウニ直売会が行われ、我々はその手伝いをした。ウニ直売会は例年通り朝から行列が出来る程の盛況ぶりであった。

10月16日及び17日に行われた岩手大学大学祭に於いては「ひろのバーガー」を販売し、これを通じて洋野町の宣伝を行った。尚、売り上げは先年同様、好調だった。

10月に大野高校・種市高校の進路説明会に参加し、岩手大学の説明と共に当プロジェクトの広報も行った。

11月26日にはE_code主催のぬぐだまるフェアに参加し、洋野町の宣伝を行った。

12月に新聞発行へ向けた調査を行った。

2月26日に高校生と食の交流会を行った。その際、食の匠を講師として招待した。

4. 結果報告

第一に、活動を通じて大学生の洋野町への理解が広がった。交流人口も広がり、福祉へ向ける一助となった。

第二に、洋野町の高校に於ける当プロジェクトの知名度が上昇した。今後の交流活動に於ける布石となり、食の交流会はこれを証明した。

第三に、食の交流会は食の匠・大学生・高校生の交流を実現し、各世代の交流を実現した。加えて、大学生・高校生双方にとって洋野町の文化に触れる良い機会となり、洋野町の一体化へ向けての活動の今後の雛形と言える活動となった。

5. 今後の活動予定

(プロジェクトをどのように発展させ、継続していくのか、具体的に記載)

今年度中に新聞第一号発行予定。新聞で洋野町の魅力を発信すると共に、高校生等からの記事も募集する。尚、新聞は洋野町回覧板、岩手県立大野高等学校、岩手県立種市高等学校、岩手大学他に配布する。

交流会は引き続き行う。今後は一般大学生も巻き込むツアーも検討していく。

今後も大学祭に於ける物産販売を行う。

平成 28 年度 Let's びぎんプロジェクト

最終報告書

プロジェクト名：大迫町の中心でぶどう愛を叫んじゃいました

< 報告書必須記載事項 >

1. 構成員氏名・学部・学科（課程）・学年

農学部	農学生命課程	二年	白井賢太郎
人文社会科学部	人間文化課程	二年	照井絢子
農学部	農学生命課程	四年	榮田真子
農学部	農学生命課程	四年	阿部慶太
人文社会科学部	人間科学課程	二年	鈴木綾華
教育学部	学校教育教員養成課程	二年	和山柚子
農学部	共生環境課程	二年	佐藤初音
教育学部	学校教育教員養成課程	三年	柿澤瑞生
人文社会科学部	人間科学課程	三年	小岩千夏
農学部	共生環境課程	三年	平谷一馬
農学部	農学生命課程	四年	佐藤優
人文社会科学部	環境科学課程	二年	三上華永
人文社会科学部	人間科学課程	二年	白 峻源(ベク ジュンウォン)
人文社会科学部	法学・経済課程	二年	三角麗美
人文社会科学部	国際文化課程	二年	芦口和哉
農学部	応用生物化学科	一年	村主渉
農学部	応用生物化学科	一年	伊藤望
人文社会科学部	地域政策課程	一年	土崎魁
人文社会科学部	地域政策課程	一年	高橋京介
農学部	応用生物化学科	一年	高橋佑季
人文社会科学部	地域政策課程	一年	伊藤さわこ
農学部	植物生命科学科	一年	佐野広之
農学部	植物生命科学科	一年	稲田涼吾
農学部	応用生物化学科	一年	渋谷泰我
農学部	植物生命科学科	一年	大谷昭博
農学部	応用生物化学科	一年	工藤唯
農学部	応用生物化学科	一年	川端菜月

2. 活動目的

学生とぶどうづくりの現場をつなぎ、多くの人に大迫の魅力を伝え、地域を盛り上げる

3. 活動の経過・内容

7月13日 Let's びぎんプロジェクト審査会

7月30日 ぶどうづくり隊と就農セミナー、交流会

花巻市で募集しているぶどうづくり隊の方と大迫町民の方々とバーベキュー

8月3日～8月5日 東大生と交流

東大生の研修の一部で一緒にぶどう栽培のお手伝いやワークショップに参加

8月7日 矢巾町での学生交流会

地域支援の学生団体の集まりで、この活動の紹介と他団体との交流

8月23日 NHK 盛岡放送局まじえ 5時 部長出演

大迫のぶどうを持参し、ラジオ出演。大迫を PR !

- 9月1日 情報誌作成のための大迫現地への取材
- 9月5日 情報誌作成のための大迫現地への取材
- 9月10日 情報誌作成のための大迫現地への取材
- 9月18日 おおはさまワインまつりでのお手伝い
町の女性部の皆さんの焼肉販売のスタッフとして参加
- 10月15日～10月16日 不来方祭
情報誌“Oh!はさま！～ちょっとでも驚いてほしい、大迫のいいところ～”を配布し、大迫のぶどうを同時に販売。
- 11月26日 いわてぬぐだまるフェス@クロステラス盛岡に参加
岩手県のような地域を応援する学生団体が集結し、魅力を伝えた！
- 1月27日 カンパイ！大迫！開催@岩手大学中央食堂
大迫の3つのワイナリーさんに集ってもらい、各ワイナリーの紹介やこのプロジェクトの活動紹介、そしてワインの試飲会を行った。

4. 結果報告

大迫への現地訪問は取材等で合計 10 回

不来方祭でのぶどう販売はぶどう 110 房完売！

5. 今後の活動予定

岩手大学ぶどう部という岩手大学の同好会という立場で活動していて、Facebook 上で紫波の新規就農者でぶどう農家をされている方やソムリエをされている方など様々な方から一緒になにかしたいとお声がけいただいております、その紫波のぶどう農家さんからはうちの畑でぶどう部のぶどうを栽培しないかというお話をもらっています。学生内でも、いわてぬぐだまるフェスのつながりを活かそうと協議会のようなものができており、それぞれの岩手大学の地域支援団体の抱える問題（人手不足やメンバーの意識の相違など）を協力して話し合い、解決していく。特に、ぶどう部としての活動は 2017 年 6 月 3、4 日に行われる日本ワインフェスティバルは大迫の宿場町 400 年記念行事でとても大きなイベントであり、何らかの形でお手伝いできればと考えている。私たちのできる活動の案はいくつも挙げることができるが、それを誰がいつどのように行うか、それができれば継続した活動、大迫への支援が可能になると考えている。そのために、学生、社会人、大人と多くの人の力を借りながら前に進めていく。

6. 活動写真



いわてめぐだまるフェス



おおはさまワインまつり



カンパイ！大迫！



不来方祭



情報誌作成のための大迫への取材



東大生との交流